

## 特集

# 外国籍の子ども達への就学支援教室 虹の架け橋に聞きました

市民と議会をつなぐ特集ページです。  
今回は、虹の架け橋菊川小笠教室で、活動内容や課題、市民の皆さんに知ってほしいことについて聞きました。

### 「今増え続けている外国籍の子ども達への教育が、将来の日本を支える力となる。」



教室での授業風景

〈卒業するまでに、どの程度の日本語、算数、文化を教えるのですか？〉

期間も短いので本当に必要な部分しか教えられないのが現状です。

・ **日本語** 学校で先生の指示がつうじる。体調不良や困った事を伝えられる。

読み書きは、ひらがな・カタカナ。漢字は小学校1、2年程度。

・ **算数** 入校時の学力からスタートし、ステップアップするが、学年相当までは引き上げられない。文章は小学校1年程度。

・ **ルール** 特に学校内のルール（アクセサリー禁止、自分たちで掃除する、ごみの分別等）

保護者には、保護者会、授業参観、運動会、三者面談等の学校行事は、仕事を休んでも出席するよう伝えていきます。

〈日本との週間、文化の違いで大変なことはありますか？〉

生活習慣の基本的なこと、必要なことから教えるのが大変です。

・ 小学校3年生くらいでも母語の読み書きができない子どもが多い。

・ 基本的な生活にかかわる言葉や、時計の見方がわからない子が多い。

・ はさが使えない。ひもが結べない。

・ 食事が偏りがち。

・ 宗教上のこと、習慣の違いの対応。

〈子ども達と関わっているのやりがいを感じる時はいつですか〉

・ 教えたことを理解してもらえたときはもちろん、日本語で冗談を言ってくれたときは特にうれしいです。

・ 子ども達の成長を見守って、その後に活躍する姿を目にできたときです。